

東横学園女短大 ○上田 トメ  
藤岡也寿子

1. 長着の着装において、胸部衿の打ち合わせ寸法に不足を生じた学生が被検者中約 10% あった。長着の身幅は腰囲寸法を基準としてその割り合いによって寸法を算出し構成している。従来の普通寸法とほぼ同様の割り合いである。以上の和服型の形成が 90% の学生には合致したものであり、少々の寸法不足は広衿やバチ衿の幅で補なわれているがこの範囲外である場合には胸囲と腰囲との差について比較検討されなければならない。

2. 被検者の胸囲と腰囲を比較すると、前者は胸囲<腰囲の差は 0.5 cm~3 cm 以内であった。後者は 3 cm 以上 15 cm であり、9 cm~11 cm の差が最も多く 30% であった。被検者中胸囲の最小は 76 cm、最大は 97 cm で 84 cm~86 cm が 37% である。腰囲は最小 80 cm で最大 106 cm で 90 cm~92 cm が 33% であった。

3. 被検者中の 10% は胸囲の部位で幅を必要とするものであるので、この部分の寸法を 胸囲/4 にとり、後幅、肩幅によって標された線上の袖付止りより衽下りまでを胸幅として 胸囲/4 の寸法を試みた。衽下りの傾斜寸法は 2 cm 前後となり、着装上は不自然な衿の打ち合わせをすることなく、脇下では前後の身八つ口が開くことなく、この部の寸法は補なわれた。個々の寸法は普通寸法及び普通体型を参考とし、各自の体型を把握せしめ、部分的に特別寸法の考慮がなされるよう体型の研究を進めたい意向である。